

## TruPhase の導入(6) —デジタル再生における動作確認(4)—

### 1. はじめに

前報(5)に引き続き、TruPhase のデジタル再生における動作確認を実施しました。

### 2. TruPhase のデジタル再生における動作確認方法

前報(5)に引き続き、TruPhase の XLR 入力→XLR 出力を検討していきます。

今回は、Brooklyn DAC+の XLR 出力からバランスケーブルで TruPhase の XLR 端子に入力し、TruPhase の XLR 出力は、バランスアナログアキュライザーとバランス→アンバランス変換コネクタを経由で RCA ケーブルにより Langevin 6V6pp に接続しました。なお、このようなバランス→アンバランス変換コネクタやバランス→アンバランス変換ケーブルを使用することは、音が出なかったり、最大音量になったり、トラブルの原因になりえるということでメーカーから禁じられています。

### 3. TruPhase のデジタル再生における動作確認の結果

以上の経路で、fidata HFAS1-S10 収納の DSD 音源や PCM 音源を再生し、USB ケーブルで Brooklyn DAC+の USB 端子に入力します。

音出しはできましたし、位相反転のスイッチも動作しました。また、音質もかなり良いという印象でしたが、位相反転の NORMAL と REVERSE で音量が違いすぎ、メーカー指摘のとおり常用には問題があることが分かりました。

### 4. まとめ

Brooklyn DAC+から XLR 入力し TruPhase の XLR 出力をアンバランス変換することは可能で、位相反転のスイッチも動作しましたが、メーカーが推奨していない方法であり、位相反転の NORMAL と REVERSE で、音量が違いすぎるという弊害がありました。

以上